

森鷗外の「豊熟の時代」

—中期文学活動の現代小説を中心に—

目 次

目 次

中文要旨 i

凡 例

序 章

1. 作家鷗外の顔 1
2. 鷗外と「恋愛」、「結婚」 3
3. 「豊熟の時代」における鷗外の「恋愛」の
見方 7

本 章

- 第1章 『半日』における博士夫人の〈気違〉
—森鷗外ドイツ三部作における〈狂気〉と
の類縁性—
 1. はじめに 11
 2. 博士夫人の〈気違〉の内実 14

3. 博士夫人の異質性とドイツ三部作にお
ける〈狂気〉との類縁性 20
4. 「嫉妬」の創作背景とその意図 26
5. おわりに 29

第2章 『キタ・セクスアリス』における「恋 愛」の位相

—『舞姫』における「恋愛」と比較して—

1. はじめに 31
2. 恋愛対象の「目」の働き 34
 - 2.1 秋貞の娘の「目」 34
 - 2.2 エリスの「目」 37
3. 太田豊太郎と金井湛の性体験 40
4. おわりに 46

第3章 『青年』に見る小泉純一の「女性嫌 悪」

—『文づかひ』・『キタ・セクスアリス』に
おける「結婚回避」との関連性—

1. はじめに 49
2. 坂井未亡人の誘惑と小泉純一の「女性

嫌悪」	51
2.1 肉体への欲求	51
2.2 男子の貞操	57
2.3 「自己嫌悪」から「女性嫌悪」へ	61
3. 金井湛の「結婚回避」とイハダ姫の「結 婚回避」	65
4. おわりに	71

第4章 『雁』における三角関係

—『うたかたの記』と照応させて—

1. はじめに	73
2. 先行作品『うたかたの記』について	75
3. 『雁』における三角関係	79
4. 『うたかたの記』と『雁』の照応性	85
5. おわりに	90

終章

1. 「豊熟の時代」における森鷗外の眼差し	93
2. 浪漫性から写実性、そして歴史性へ	98

参考文献	101
付 録	115
初出一覧	130
あとがき	132